

美術科 夏休み学習課題

(2)年

鑑賞レポート 題名【ミュシャ展を観て

市立美術館で行われている「ミュシャ展」で、アルフォンス・ミュシャの絵を観ました。

幼少期の写実的な絵も凄いな、綺麗ななと思いました。私は、「ミュシャ様式」が用いられ、女性と花が描かれた絵の方が気に入りました。大胆な、でもどこか繊細さを感じさせる輪郭の線、独特の背景、衣装。他の画家には見られない、とても素敵で絵だな、と思いました。

特に、連作装飾パネル「四つの花：アリス、バラ、ユリ、カーネーション」と連作装飾パネル「一日：朝の目覚め、昼の輝き、夕べの夢想、夜の安らぎ」の2つが、いいな、と思いました。何故ならそれぞれの題材のイメージと女性の雰囲気、背景も幻想的で観ていて、心が踊ったからです。

また、幼馴染や娘をモデルにした絵は、写真とそっくりすぎて驚きました。特に娘の絵の方は、「ミュシャ様式」が用いられていて、そっくりな上に背景も芸術的。才能を持っているとは凄いなあ、と思いました。

母が「ミュシャの絵が好き」と言っていた理由も分かった気がします。

